

| | | |
|----|----|----------|
| 学番 | 27 | 県立村上高等学校 |
|----|----|----------|

令和 5 年度

学校自己評価表（最終評価）

| 学校運営計画 | | | |
|---|---|--|----|
| 学校運営方針 | 1 光り輝く魅力ある“村上高校”を目指す！（生徒と教職員が元気になる） 2 当たり前のことが当たり前でできる生徒を育てる学校を目指す！ 3 人間的魅力にあふれた生徒を育てる学校を目指す！（「堅忍不拔」の精神） 4 組織力（全員協力）で動く学校を目指す！（チーム村上高校） 5 いじめ、体罰を許さない学校を目指す！（人権を尊重する学校づくり） 6 地域に一層開かれた学校を目指す！（情報発信と授業公開等の推進） | | |
| 三つの方針(スクール・ポリシー) | | | |
| 育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー) | 1 未知のものに勇気をもって向き合い、謙虚に、かつ、意欲的に学ぶ生徒の育成を行います。 2 他者への配慮と心のこもった挨拶や振る舞い方を身に付け、思いやりをもって他者に接することにより、真に信頼される生徒を育成します。 3 学校生活の様々な機会を通じて心と体を鍛え、自分の将来の目標に向け、覚悟をもって努力する生徒を育成します。 | | |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) | 1 生徒一人ひとりの学力を高めるために、基礎的な学習の繰り返しにより知識の定着を図る指導を行います。 2 確かな学力に基づく問題解決力と判断力を身に付けさせるために、教科横断的な探究学習を行います。 3 専門分野に対する深い理解をもった職員が、質の高い授業を行い、学ぶことの面白さと喜びを伝えながら、生徒の教養を高めます。 | | |
| 入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー) | 1 学ぶことに意義を感じながら、自身の成長を信じて日々努力できる生徒 2 自分と異なる考え方や新しい知識に誠実に向き合い、人間性を磨こうとする生徒 3 地域や世界に対する理解を深め、自ら得た知識や考え方を生かしながら、将来、社会に貢献しようとする意欲を持った生徒 | | |
| 昨年度の成果と課題 | 年度の重点目標 | 具体的目標 | |
| 新型コロナウイルス感染症に対する対策も緩和傾向となり、縮小・中止が続いた学校行事や外部との連携についても、徐々に実施できたものが増え、充実した教育活動が展開できた。また、生徒の学びを保障するための授業配信や、ICTを活用した授業改善も着実に定着しつつある。 一方、昨年度の学校自己評価においては、特に探究学習の項目について当初の目標が達成できていないことから、生徒がより成果を感じられる取り組みとなるよう検討を図る。 | (1)学習習慣確立と学力の向上 | ○学び方、学ぶ姿勢を体得させる。 ○授業改善をとおして、基礎基本の定着を図る ○上位者・中位層を更に伸ばす工夫と全体の底上げを図る。 | |
| | (2)基本的な生活習慣の確立と生徒支援体制構築 | ○「時間を守る、礼を正す、場を清める」の3つの基本を徹底する。 ○規範意識と社会性を醸成する。 ○人権教育、特別支援教育への理解を深め、豊かな人間性を育む。 | |
| | (3)主体的進路選択と進路目標の実現 | ○村高イヨボヤプランを軸としたキャリア教育を通して、生徒の個性に応じてキャリアアップを図ることにより、主体的な進路選択能力・態度を育成する。 ○国公立大学・難関私立大学への進学を可能にする組織的、系統的な進路指導体制を構築する。 | |
| | (4)積極的な情報発信と地域に開かれた学校づくりの推進 | ○キャリア教育、ICT活用、授業改善などの取り組みによって学校の魅力を高め、保護者や生徒から学校の魅力が地域に自然に発信されるようにする。 ○学習支援クラウドサービス等を情報発信手段としてより活用するとともに、各行事において保護者や中学生の来校者数を増加させる。 | |
| 重点目標 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 |
| 学習習慣確立と学力の向上 | ○学び方、学ぶ姿勢を体得させる。 | ・通年で朝学習を展開し、基礎・基本の定着を図る。 | A |
| | | ・家庭学習時間を確実に記録させ、1・2学年1月で家庭学習平日2時間以上の生徒が30%以上、3学年10月で家庭学習時間平日3時間以上の生徒が50%以上にする。(1年8.3%, 2年25.8%, 3年36.9%) | C |
| | | ・学年末の観点別評価において、主体的に学習に取り組む態度の評価Aの数を全体の50%以上にする。(1年53.2%, 2年44.0%, 全体49.1%) | B |
| | ○授業改善をとおして基礎基本の定着を図る。 | ・授業の5割以上で電子黒板が使用されている。(21.7%) | C |
| | | ・授業の3割以上でタブレット端末が使用されている。(8.7%) | C |
| | | ・模擬試験において、学力低位層の生徒を減少させる。(ｽﾀｯﾌﾟ 1年1回→1年3回 : C3~D3/57人→34人) | A |

| | | | | | | |
|--|---|---|--|---|-------------|---|
| | ○上位者・中位層をさらに伸ばす工夫と全体の底上げを図る。 | ・難関国公立大学と難関私立大学に合わせて5人以上合格させる。(8名) ・国公立大学進学率を12%以上にする。(15.2%) ・実用英語技能検定において準2級合格率50%以上、2級合格者を25%以上にする。(準2級35.0%、2級25.3%) | A A B | A | | |
| 基本的生活習慣の確立と生徒支援体制の構築 | ○「時間を守る、礼を正す、場を清める」の3つの基本を徹底する。 | ・端正で清楚な服装・頭髪に努めるとともに、社会生活における礼儀とマナーを育成する。 ・基本的生活習慣を身につけさせ、社会規範を遵守する態度を養う。 ・授業開始時に教室が整理されている。 | A A A | A | | |
| | ○規範意識と社会性を醸成する。 | ・いじめや体罰のない学校づくりを推進するため、年3回以上アンケートを実施する。(3回+体罰・暴言調査等) ・情報モラル講演会を実施し、保護者への啓発も行う。(3回) ・交通ルール・マナーを遵守する指導を徹底し、生徒の交通事故報告件数を3件以下にする。(0件) | A A A | A | A | |
| | ○人権教育、特別支援教育への理解を深め、豊かな人間性を育む。 | ・人権教育に関する職員研修会を2回以上行うとともに、生徒全体への指導機会を3回以上確保する。(職員3回、生徒12回) ・特別支援教育推進委員会を年6回以上開催し、生徒の情報の共有や効果的な支援方法を立案・実施する。(8回) ・生徒が安心して学校生活を送れるよう、いじめの未然防止と発覚した際の迅速な対応を目的とした教職員の校内研修を実施する。(3回) | A A A | A | A | |
| | 主体的進路選択と進路目標の実現 | ○村高イヨボヤプランを軸としたキャリア教育を通して、生徒の個性に応じてキャリアアップを図ることにより、主体的な進路選択能力・態度を育成する。 | ・イヨボヤプランによって、5割以上の生徒が協調性を、3割以上の生徒が表現力を向上させている。(協調性24.2%、表現力41.7%) ・イヨボヤプランにおける探究活動の成果を、7割以上の生徒が進路に役立つと実感している。(74.0%) ・2学年末の時点で将来の仕事はまだ具体的に考えていない生徒を1割以下にする。(31.2%) | B A C | B | B |
| | | ○国公立大学・難関私立大学への進学を可能にする組織的、系統的進路指導体制を構築する。 | ・進路指導部を中心に放課後、長期休業中、平常補習、面接指導、小論文指導を体系化し、組織的に指導する体制を構築する。 ・共通テスト国公立型出願率を30%以上にする。(36.2%) ・国公立大学の総合型選抜、学校推薦型選抜の出願率を10%以上にする。(12.0%) | A A A | A | |
| | | 戦略的情報発信と地域に開かれた学校づくりの推進 | ○キャリア教育や授業改善などの取り組みを充実させることによって学校の魅力を高め、保護者や生徒から学校の魅力が地域に自然に発信されるようにする。 | ・1学年の総合的な探究の時間において、地域と連携した取り組みを3回以上行う。(校外学習、むらかみ出前講座、探究活動調査、探究活動発表) ・高校生活に80%以上の生徒が満足またはやや満足している。(83.7%) ・保護者へ年3回以上授業を公開する。(随時) | A A B | A |
| ○学習支援クラウドサービスを情報発信手段として活用するとともに、各行事において保護者や中学生の来校者数を増加させる。 | ・学習支援クラウドサービスを情報発信手段として平均して学年あたり月3回以上活用する。(連絡やアンケートで頻繁に活用) ・PTAの各事業への参加者数を前年度よりも増加させる。(総会R4 26%→R5 18% / 学年PTA R4 39%→R5 35%) ・オープンスクールへの参加者数を前年度よりも増加させる。(R4 276人→R5 224人) | | A C C | C | | |
| 成果 | 家庭学習時間、PTA事業およびオープンスクールにおいては、当初の目標を達成出来なかった。一方で、生徒指導・進路指導に係る取り組みにおいては、目標以上の成果を上げることができた。また、ICTを活用した授業実践については、依然目標値を下回ってはいるものの、教職員のスキルは着実に向上しており、次年度での更なる充実が期待できる。 | | 総合評価 B | | | |